

0224

53

軍極秘

千歳

Handwritten notes in the top left corner.

軍艦千歳戦時日誌

Chitose

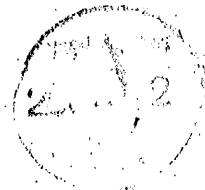
軍艦千歳

7/10

自昭和十九年十月一日
至昭和十九年十月三十日

Handwritten notes on the right side.

一月三日送付





一作戰經過概要

二人員現狀

三令違報告等

四戰訓所見

五船體兵器機關等

本艦十月二十五日戰鬥於ヲ沈没關係書類
亡失ニ付詳細不明

(終)

0226

55

一作戰經過概要

三	二	一	日
	吳		在所
			天 氣 風 向 風 速 氣 溫 視 界 (浬) 六。三。八。
第 一 隊	第 二 隊	第 三 隊	一 般 任 務
隊 部	部 隊	機 動 部	特 別 任 務
備 用	整 頓	練 習	經 過
右 同	午 前 所 置 教 育 午 後 右 同	三。三。三。船 乘 入 渠 午 前 入 渠 作 業 午 後 配 置 教 育	
新 設 左 舷 推 進 器 換 裝 粒 液 方 位 測 定 機	右 同	左 舷 推 進 器 換 裝 短 波 方 位 測 定 機 新 設 不 要 物 品 陸 揚	記 事

0222

56

七	六	五	四
---	---	---	---

兵

千歳

三 航 空 隊

機 動 部 隊

訓 練 整 備

〇八〇〇 出渠 丁 鎗地繫留 午前 繫留作業 午後 疏置教育	右 同	右 同	右 同
右 同	新設 短波方位測定機	右 同	右 同

0228

57

二	一	九	八
---	---	---	---

兵

三 第 隊 艦 三 第

隊 部 動 機

備 整 練 訓

<p>午後 前 配置教育 右 同</p>	<p>午後 前 配置教育 神社祭典</p>	<p>午後 前 配置教育 。八。 品番得標繫留 作業</p>	<p>午後 前 配置教育 右 同</p>
<p>短波方位測度機新設 噴進砲彈丸搭載 野糧品 酒祭物品 被服物品 土糧品 搭載</p>	<p>右 同</p>	<p>右 同</p>	<p>右 同</p>

一五	一四	一三	一二
----	----	----	----

兵

隊 戰 空 航

隊 部 動 機

備 整 練 訓

右 向	右 同	右 同	右 同
右 同	右 同	右 同	新設 短波方位測定機

0230

59

一九	一八	一七	一六
分	大	山 徳	島 八

茅 塚 三 茅

塚 部 動 機

備 置 練 訓

飛行機部分搭載	生糧品搭載	〇八〇〇 八島出港 一三〇〇 徳山入港 燃料搭載 一八〇〇 徳山出港 二三〇〇 大分入港	〇八〇〇 八島出港 一四〇〇 八島入港
成 出撃準備作業完			

二	二	二
中	海	航

隊 戰 空 航 三

隊 部 動 機

(戦 決) 戦 作 號 捷

<ul style="list-style-type: none"> 一。〇。〇。出港伊藤灘ニ於テ總飛 行機收容 一六。〇。豊後水道ヲ出撃 (芽一警戒航行序列) 一八。〇。廣波哨戒隊三航備 	<ul style="list-style-type: none"> 一。九。三。〇。海遊機席ヲ發見 一。〇。〇。〇。對潜直衝機發艦 一五。〇。〇。天山二機對潜制圧 發艦(一機墜落) 一七。〇。〇。天山一機歸投 	<ul style="list-style-type: none"> 一。五。五。〇。察敵機三機發艦 一。六。〇。〇。岸一警戒探信航備岸 三警戒探知配備 一。四。〇。〇。鹿波岸三警戒配備 一。一。〇。〇。〇。桑ニ飛行補給 本艦察敵機一機瑞鶴ニ 歸投ニ飛行方不明 一。四。〇。〇。〇。五十鈴ニ飛行補給
---	--	---

二四		二三
中	海	航
隊	艦	隊

隊 艦 隊

(戰 決) 戰 作 統 括

<p>一九三。五十鈴或航補給中止 二。節却待待候 隊一警戒航行序列</p> <p>一四二。機動部隊本隊ノ南方四〇〇 理。敵機動部隊航行動中ト 判断サル</p> <p>一八。隊一警戒航行序列別法 基準艦日向</p> <p>六三。隊四警戒航行序列 敵部隊ハラニニカ附近ニ アル模様</p> <p>二三。ラニニカ附近。敵部隊及 撃シテノ全攻撃隊出發</p> <p>直掩隊 七 特攻隊 二 誘導隊 二</p> <p>一五三。隊三軍隊區分 空母隊ハ針路西トス</p> <p>一五五。敵機触接ニ核急降下爆撃等 態勢ヲ期ス</p>		
--	--	--

航 海 中

三 航 度 戰 隊

機 動 部 隊

機 務 作 戰 (決 戰)

對空戰鬥
敵機被擊中六機逃走

○六一五 戰爆機發艦ニルスニ向フ

○六四九 第一隊隊區分隊四機警戒航

行序列

○七三〇 天山機發艦

第一機務

○八〇〇 配置ニ就テ

○八一〇 直衛機ニ就テ

電探敵機群捕捉

○八一五 左一二。度高角一。度敵機大

編隊ヲ發見

○八二二 敵機吾機本艦ニ未襲

○八二四 砲撃射撃開始

○八二七 右一五。度。機意降下

○八二八 左高射器去噴進砲ニ直撃

彈各一命中

兩艦至近彈多數

○八三〇 右一五。度。機意降下

機意降下

二五

航 海 中

第 三 隊 艦 隊 航 空

機 動 部 隊

捷 速 作 戰 法 (或)

艦尾直撃弾命中至近弾
多数

八三四 右二〇度ヨリ約一〇機急降下
西舷至近弾無数

八三五 左六〇度約一〇機急降下

左舷前部直撃弾三

左傾斜七度

八四〇 傾斜左八五度トナル

八四三 打方待テ

八四五 敵機四右八〇度ヨリ機銃掃

射

八五〇 傾斜左二〇度速力一四節

八五二 打方止メ

傾斜左八六度

八五四 艦内閣鎖調査ヲス

八九〇 被弾航用意

八九五 被弾航用意完成

艦内閣鎖確認

機密圖書暗掛書處理完

航 海 中

森

戦 隊

戦 隊 動 部

捷 矯 作 戦 (決 戦)

成

全員右舷ニ移ル

九三〇 行脚止ル傾斜左ハ二八度

九三五 御寫真ヲ補助艦橋ニ奉遷

傾斜左ハ三〇度

總員「上」

九三七 艦影ヲ没ス

二人員現狀

(一) 職員官名

職	職	官	氏	名	記	事
艦長	同	大佐	岸	良幸	十月二十五日戦死	
副長	防禦總指揮官	大佐	矢野	寛二	十月二十五日戦死	
機關長	運轉總指揮官	中佐(正)	徳永	巳法	十月二十五日戦死	
航海長兼分隊長	航海	少佐	岡村	幸雄		
通信長兼分隊長	通信指揮官	少佐	松原	市藏		
内務長兼分隊長	第一防禦指揮官	少佐	鈴木	豊	十月二十五日戦死	
軍醫長兼分隊長	軍醫	醫大尉	菅屋	敏男		
砲術長兼分隊長	砲術	大尉	菊池	政秋		
主計長兼分隊長	主計	主大尉	平尾	襄	十月二十五日戦死	
分隊長	機部指揮官	大尉(特)	松井	久雄		
分隊長	機部指揮官	大尉(正)	永井	徹		
分隊長	司令部附(砲探)	技大尉	越智	崇吉		
分隊長	發着機部指揮官	大尉(整)	石川	三郎		
分隊長	左高射指揮官	大尉(水)	矢野	茂		

乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘
組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組
戰	戰	主	主	第	左	機	機	機	主	機	水	機	第	航	第	通
斗	斗	計	計	一	高	銃	信	械	計	開	測	銃	四	海	二	信
記	記	長	長	防	角	群	部	部	長	長	部	群	防	士	防	士
録	録	補	補	禦	砲	指	指	分	補	階	指	指	禦	士	禦	士
員	員	助	助	指	指	揮	揮	掌	助	階	揮	揮	指	士	指	士
豫	豫	官	官	揮	揮	官	官	指	官	尉	官	官	揮	尉	揮	尉
備	備	習	習	工	兵	少	少	少	主	少	少	少	少	少	少	少
學	學	計	計	曹	曹	尉	尉	尉	少	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉
生	生	官	官	長	長	(水)	(水)	(機)	尉	(毛)	岡	淺	屋	高	岩	水
長	柏	松	平	松	富	末	森	山	田	河	岡	野	井	瀬	松	野
沼	木	山	野	木	永	次	下	木	代	田	岡	野	井	瀬	松	野
	武	光	道	時		悦	茶		延	遠		敬	泰	克	重	彌
勝	章	成	夫	治	正	造	次	強	男	弘	達	三	則	朗	裕	三
シ	十月		十月		十月		十月			十月				十月		
	子		子		日		日			子				子		
	亥		亥		壬		壬			亥				亥		
	戰		戰		少		戰			戰				戰		
	死		死		尉		死			死				死		

(二) 下士官兵員数

乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	乘	
組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	
戰斗記録員	右噴進砲指揮官	機械部分掌指揮官	信 號 長	魔機部分掌指揮官	發着機部 附	機 銃 群 指 揮 官	機 銃 群 指 揮 官	機 械 部 分 掌 指 揮 官	發着機部 附	三 象 長	浮五防禦班指揮官	掌 衣 揮 長	掌 通 信 長	見 張 長	暗號部指揮官
主曹長	兵曹長	機曹長	兵曹長	機曹長	兵曹長	兵曹長	兵曹長	機曹長	機曹長	兵曹長	兵曹長	主曹長	兵曹長	兵曹長	兵曹長
北里	谷口	内山	田畑	別府	上野	松下	森藤	有野	矢野	上野	向井	三宅	高木	中尾	戸山
靜	駒	真馬	彦忠	春茂	守	昌澄	茂廣	正博	清喜	晴敏	幸一	正一	英樹	藤吉	真澄
ノ	シ	ス	シ	シ	清正音戦死										



三、今違報告等

兵科	飛行科	整備科	機関科	工作科	看護科	主計科	其他	計
四三二		二五九	二二三	三五	一〇	三八	四	九〇一

日	時	発信者	着信者	令	違	報	告	區	別
二〇日	一四〇五	P KDF	KDF	二〇日八〇〇。以後、廣波波成。三ヶセハトナセ				信	瑞
	一七三五	〃	〃	今夜二二〇ヨリ遠方一六節。二〇ヨリ針路一八〇度豫定				〃	〃
	二二〇五	〃	〃	〇〇〇針路一八〇度速力一八節				〃	〃
		〃	〃	〇六〇速力一六節。〇八〇針路二〇五度				〃	〃
二二日	八四七	P KDF	KDF	對潛警戒機發着艦ハA法ニ依リ所實施事ニ改ム				〃	〃
	〇九三〇	千歳	△ 459	浮遊機席アリ注意サレシム				〃	〃
	一四一二	P KDF	KDF	千歳準備出来次第艦攻二機發進地点「ソコ」附近ノ				〃	〃
		〃	〃	敵着ヲ制止日没迄三歸投セシムベシ				〃	〃
	一四二〇	〃	〃	XサヨX、本日午後ノ索敵ハ行ハズ				〃	〃
		〃	〃	XサヨX				〃	〃
	一七三〇	〃	〃	明二二日午前(時刻ハ後令)中ヨリ左ヨリ或航補給ヲ海兵				〃	〃
		〃	〃	施セリ準備シオカレ度				〃	〃
		〃	〃	一供給艦(愛艦) 瑞鶴(多摩) 瑞鳳(杉)				〃	〃

0240

69

〇八五	二二日 〇七五五	一八三〇	一八〇〇
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃

千歳(五十鈴) 千代田(桑模)
 大淀(桐)

二補給量 駆逐艦滿載
 一、對潛直衛隊二法担任艦
 〇五三〇ヨリ一三〇〇迄 千代田
 一、二〇〇ヨリ一四〇〇迄 千歳
 一、四〇〇ヨリ日没迄 瑞鳳 大淀水偵二機三〇
 分待機

二、索敵機發進後ヨリ一〇〇迄全攻撃隊隊二待機
 明二二日〇六〇以後一ケタハ三ケタチトナセ

指令隊ハ疏中對潛警戒ノ項ヲ左ノ通り改ム
 一、對潛直衛隊二法。五三〇ヨリ一八〇〇迄 千代田
 〇八〇〇ヨリ一三〇〇迄 瑞鳳以下後令

二、地点ノムラ附近ノ敵潛制止一機一三〇迄 千代田一三〇
 ヨリ一四〇〇迄 千歳

本日補給ニ関シ左ノ通り定ム
 一、補給針路一八〇度補給速度九ノ節
 二、補給序列ハ現航行序列ノ通り

千歳

廿一歲

<p>一七四五 一八三五 一九〇〇</p>	<p>ス ス ス</p>	<p>ス ス ス</p>	<p>一 攻撃待機ヲ解ク全戦斗機隊ニ待機トナセ 二 對潜魚衝法第ニ法ニ機一五〇ヨリ日没迄担任艦瑞 鷗 一 ケタハ三ケタナトナセ 廣探偵波戦斗法第制 一 一九〇〇ニ至ラバ令ヲシテ第ニ隊ニ航行序列ニ右位トナ 二 一九〇〇以後二十分即時待機トナセ</p>
<p>二三日一三四二 一六二五 不明</p>	<p>ス ス ス</p>	<p>ス ス ス</p>	<p>一 當隊南方四〇哩ニ敵機動部隊行動中計算アリ 二 本日當隊原隊敵機敵ヲ見ズ 明日〇六〇以後最大戦速即時待機トナセ 送信艦所 東京第一隊送信者沖大東島見該所 一 本日一三七本島西方百米海上ニ味方艦上機一機 (三六五三〇六)不時着ト同時ニ自爆 二 死体一(佐藤飛長)及時預書遺品ヲ若クモ收容ス 機体同地点ニ沈没ス其ノ他不明 三 救命診ニ記名シタル人名左ノ如シ 家中上等飛行兵曹 酒井一等飛行兵曹</p>

<p>二四日 〇七三〇 〇九五〇</p>	<p>〃 〃</p>	<p>38f 45f</p>	<p>本日漆敵二千七番線... 担任 艦 瑞鶴 KDMB 指令 瑞 二千三番線 二十四日×ワフクイシンレイ× (イ) 準備出来次第發艦 (ロ) 勝四法 () (ハ) 五番線 瑞鶴 九番線 千代田 (ニ) 五番線 二番線 度 但し側程 指示</p>
<p>二三八</p>	<p>日 KDF</p>	<p>KDF</p>	<p>今夜敵潜水艦及觸接機 照期 漆敵機ノ奇襲未攻撃ナク 對シ特ニ警戒ヲ嚴メセヨ 獨逸ノ攻撃ノ在ニ五〇度ニ料 令夜敵潜水艦及觸接機 照期 漆敵機ノ奇襲未攻撃ナク</p>
<p>一七三二 (日)</p>	<p>向 (六群)</p>	<p>瑞鶴</p>	<p>四佐藤飛長ノ死体ハ本島ニ逗留陸軍々醫ノ檢視ニ上 火葬遺骨ハ本見張所ニ三女置シアリ 序六群 漆敵機ノ航行 序列別法 (番線ヲ附シテ區別ス) 信 ヲ左ノ通り定メテ三トシテ夜間適用ス 一 基準艦 日輝 二 各艦ノ占位 後置千歳 (千代田) 日向 石 (左) 一五〇 度 二 千 桑 (五千鈴) 日向 石 (左) 七〇度 一 五 千 植 (日向) 八千 桑 (千代田) 石 (左) 九〇度 一 五 千 獨逸ノ攻撃ノ在ニ五〇度ニ料 今夜敵潜水艦及觸接機 照期 漆敵機ノ奇襲未攻撃ナク</p>

十表

<p>二五日 〇六四九 〇六五三</p>		<p>KDF</p>	<p>第一陣隊區分トナセ 第四警戒飛行序列ヲ左通り定ム 一多摩ヲ第一群ニ群ヲ第一群ニ編入ス 二第五群(三)(三)ノ占位角ヲ五〇度(四)(五)ノ占位角</p>
<p>一五二</p>	<p>KDF</p>	<p>45f</p>	<p>一五二ニ隊隊區分トナセ 二前衛ハ南方ニ進出好機ニ乘テ残敵ヲ攻撃撃滅ス 三一五〇ノ頃索敵機三機ヲシテ日根頭迄地点ヲソニテ附近ノ敵ニ觸接セシム 四本隊ハ一六〇。迄西向飛行機ヲ收容シ名後南東ニ向ヒ翌朝戦ヲ續行ス</p>
<p>一〇〇〇 一〇一五 一一〇〇 一二四二</p>	<p>飛行機 KDMB 指揮官</p>	<p>KDMB 3 KDF 35f</p>	<p>×サヨメ攻撃隊發進ハ一〇三。乃至一一〇ノ隊定我道端ヲ受ケ一〇〇。以後觸接ヲ失ス 敵部隊見エ座母ノ在否不明地点ヲウニエテ KDMB 一二四五又二ニ攻撃隊全力(艦戦四。戦爆二ハ艦偵三。艦攻六)發進ヲシカノ敵機動部隊攻撃當隊〇〇西速力ニ。部敵狀ニ應ジ機直行動 信令落ニ辨 信 辨 信 信</p>

〇九二五	ノ 千歳	ノ 人 (日)	夕三〇度トシニ察ハ(四)ニ占位スルモナドス 西舷前機使用不能ナリ 目下内火主機減ニテ航行中最大發揮速度約四 節今ノ所五時間航行可能ノ見也	ノ 夕
------	------	---------	---	-----

四 戰訓所見
未尾編綴

五 船体檢閲兵器等

不詳

0247

76

戰訓並三所見

十歳

戦訓終所見

一航海科

(1) 信部部

<p>被害状況</p>	<p>六十種信部燈 点燈セル之間モナク艦 内電源停止ノ多ク使 用不能(二次電也モ 同様)</p>
<p>處置</p>	<p>直ニ補用電球 上換装</p>
<p>所見</p>	<p>補用電球各所ニ散在シ且ツ容易ニ取 出シ得ル位置ニ格納セルヲ要ス 本艦ニテハ適當ナル格納場所キタノ四 倉庫(上甲板左舷兵員側前)ニ格納 シアルヲメ艦内傾斜暗黒防水扉 蓋閉鎖等々多ク取出運搬ニ困難ヲ 感シ換装ニ暇取レリ (約十五分)</p>

(2) 戦闘旗

战斗中六中軍艦旗ヲ掲揚セルモ本艦型空母ノ如ク战斗中
掲ヲ捌シアル艦ニテハ同战斗旗ハ絶好ノ爆撃目標トナル懸

<p>二吉信號灯 二三番シヤッター作動セ ル線接續螺止緩ミタ ルモノト認ム</p>	<p>二十種信號灯 電球安全全燈解器 異状ナン敵彈ノタメ電 路切断セルモノト認ム</p>	<p>齊動信號灯 各電球總テ是ヨリ飛 出シ内二三破損セルモノ アリ茲ニワイヤール導車 ヨリ離脱指向装置置回 轉セズ</p>
<p>手旗代用</p>	<p>大型手旗代用 電路接續ニ努メ タルモ電源停止 ノタメ使用不可 能トナル</p>	
		<p>導車空ハワイヤールトセズ速力通信器式 傳導軸ナルヲ要ス</p>

(四)

(3)

念大ナリ依ッテ三巾程度ノ軍艦旗ヲ可ナリト思考セラル
 應急通信(艦橋舵取機室間)
 火災黒煙ノ爲後部トノ視認見通信全ク不能從ッテ傳令ヲ以
 テ連絡ヲ努メタルモ敵機来襲下斯クノ如キハ極メテ危険ナリ
 依テ應急用傳聲管ノ所要數ハ必ズ供給スルヲ要ス

操舵ノ部

被害状況

處置及所見

六兵員室左舷附近至
 近彈ニ依リ両舷水圧管
 破壊

一〇艙銅板ニ依リ重要部ニ對スル防禦ハ
 施行シ居リタルモ至近彈破片ノタメハ容
 易ニ破壊セラレタリ
 之ガ對策トシテハ防禦裝置ハ今少シ強
 靱ナルモノヲ使用シ兩舷間隔ハ片舷被
 害ニ對シテモ安全ナル間隔ヲ有スル如クス
 ルヲ可トス尚通信裝置置モ同様ナリ

(1) 飛故障

(2) 通信裝置電路破壊
 ニ依ル應急通信不能

三兵員室十七兵員室附近直
 擊彈ニ依リ電路破壊舵取
 機停止及隔壁破孔ニ依リ煙
 浸入致シ浸水

三兵員室十七兵員室附近直
 擊彈ニ依リ電路破壊舵取
 機停止及隔壁破孔ニ依リ煙
 浸入致シ浸水

舵取機停止セルニ付應急線敷設ニ取リ、
 リタルモ三兵員室附近火災ノタメ敷設不
 能ナリ依ッテ戰鬥ニ先立テ應急電線ノ
 敷設ヲ必要トス

衝撃ノタメ蓄電池基礎破壊
前部轉輪室附近浸水

防衛ノ要ス

在室者退室不能ニ付之ニ處スルタメ兩舷
ニ通ル應急脱出口ヲ必要ト認ム

(ハ) 見張ノ部

(1) 見張施設ニ關スル件

艦橋ヲ有セザル空母ノ見張所ハ各所ニ散在シ指揮統率上
極メテ不便ヲ感ズ加フルニ附近ノ機銃高角砲砲撃ヲ開始スル
ニ至ラバ其ノ砲銃聲ト爆風ノタメ指揮官ノ位置ヨリ五米以上
遠隔セル見張所ニ在ル見張員ノ報告ハ殆ド聞キ取ラズ
見張所ヲ集中スル力薄敷耳管ノ直径ヲ七十五程程度ニ増大
スルカ又ハテレトクノヲ更ニ研究シ理想的ニ裝置スルノ要アルヲ
痛切ニ感ズ

(2) 見張所防彈裝置ニ關スル件

眼鏡外側ノ防彈裝置ハ極メテ貧弱ニシテ敵機ノ機銃掃射
及彈片ニ對スル危險大敵機來襲時落件キタル氣分ニテ
見張ヲ繼續スルハ困難ナリ眼鏡ノ外側ハ眼鏡ノ旋回ニ支障
ナキ高サ近鐵板ヲ並テシ更ニ防衛裝置ヲ施ス必要アリ爆撃
開始セバ眼鏡ヲヤリ放シ殆ド見張スル者ナキ現狀ナリキ此ノ占ハ

是張指揮官注意ヲ要スル点ニシテ至近彈又ハ附近命中
彈トナルトキハ特令ニ依リ眼鏡ヲ放ツ如クスルヲ要ス

(3) 迎撃關係トノ連絡

目標多數ナル場合ハ其中ノ最重要ナルモノヲ報告スル様數有リ
必要アリ即チ近時戰鬥ニテハ急降下ニ移リ向ツテ来ル飛
行機或ハ機銃掃射ニ来ル飛行機等ナリ

(二) 電探之部

三一號十三號電探共ニ飛行機發着ノ際使用不能ニナル本
電探ノ最大缺點ナリ

十三號電探ハ出来ル限リ外敵ノ突出部ニ裝備シテ飛行機
發着時ヨリ雖モ當時使用可能ナラシムルノ要アリ

(六) 水測之部

(1) 施設ニ關スル件

聽音室直通ノ高聲交話機ヲ新設セシハ艦橋トノ連絡上極
メテ有効ナリ電話ハ電線最後迄完全ナリシタメ水測室トノ
連絡ハ總員上ハ進行ハレタリ
兵器ハ堅牢ニシテ至近彈ニ依リテハ故障ヲ生ズルコトナク聽
音ヲ續行セリ

(2) 哨戒中ノ配員法

聴音能力發揮上零式水中聴音機ニ於テハ五直(當直時間一時間)ヲ適當ト認ム
當直法ハ聴音機ノ性質上使用回数多キ當直法ニ定メ置カバ可ナリ

(一) 砲術科

(1) 戦斗前ノ準備ニ關スル事項

(1) 各機銃台高射器外側ニ艦内工作ニテ手摺ヲ作り之ニ「ドレット」土囊ヲ裝備綠色ニ塗粧ス

(2) 各種彈丸ノ砲銃側準備量左ノ通り

高再砲	一門ニ就キ	六〇發
機銃	三聯裝 一門ニ就キ	六〇〇發
	單裝 一門ニ就キ	五〇〇發

噴進砲 全部テ 四四〇發

今次戦斗ノ結果ヨリ推斷スルニ機銃彈ハナシ得レバ銃側附近

二門ニ就キ約一〇〇發程度ヲ要ス

而シテ銃側以外ニ應急彈藥庫又ハ銃側ニ近キ適當ナル場所ニ予メ多数準備シオクヲ可トス

右ハ彈藥庫内注水セ場合ノ見地ヨリスルモ必要ナリト痛感セリ尚彈庫内ノ機銃彈ハ了ノ或跟彈ト普通通彈トヲ適當ニ配分シテ直ニ填充シ得ル様ニテシオクテ便トス
 彈藥庫内キ場合ハ木製ノ彈藥庫ニテモ可ナル故作製シオクテ可トス

噴進砲彈丸ハ製造間ニ合ハザル爲今度ハ全部ヲ四五發搭載セルモ將來ハ少クモ一門十發射可能ナル如ク搭載ノ要アリ

(3) 單裝機銃台ノ外板ヲ外方ニ六十度傾斜セシメ(艦内工作)而舷射擊可能ナル如クナシタルモ結果ハ極メテ良好殊ニ後部機銃群ノ單裝機銃ハ是非兩舷射擊可能ナル如クナシオクテ西女スルモノト認ム

(4) 機銃彈ハ彈倉ニ入レアルモノ全部ヲ調査彈倉發條ノ切損セルモノ弱リタルモノ等ヲ取り換エ全彈ニ塗油ヲ實施事故ヲ未然ニ防止シ得タルモノト思考シアリ

(發條折損セルモノニ個彈倉留置シ不具合ナルモノ若干アリ) 米袋五〇俵ヲ受ケ之ニ土砂ヲ填充シ銃側彈藥庫蓋側ヲ保護シタルモ艦ノ傾斜等ニ依ル滑リ止メニモ有効ナリ殊ニ單裝機銃ニ於テ然リトス

氣心カリタル部隊タル事絶対必要ト認ム
 (2) 上空直衛機 殆ンドナク加フルニ多数ノ敵機、連続未能ヲ受ケタル事

今次對空砲戦ノ結果ハ相當多数ノ敵機連續未能表スル時ハ例ハ對空砲火十分ナリトスルモ尚若干ノ損害ハ免レ得ザル事ヲ証明セリ而シテ之ヲ切抜クル道ハ母艦搭載機ハ之ヲ殆ンド戰斗機トナシ敵機未能襲時ニ先ヅ優勢ナル味方戰鬥機ニテ之ヲ撃破シ打テ滅シタル敵機ヲ對空砲火ニテ撃墜スルノ策ヲ取ル事所要ト認ム然ラザレバ現今ノ如ク味方攻撃機ニヨリ敵艦ヲ撃破スル事確實ナリトスルモ我亦相當ノ艦船ヲ失ヒ所謂相殺戦法ヲ繰返スニ過ギズ

(c) 敵機ノ攻撃ノ巧妙トナリタル事

今次戰鬥ニ於ケル敵機ノ攻撃ノ特異狀況次ノ如シ

(本艦ニテ看取セルモノノミ)

(1) 接敵高度六〇七〇。米 距離約一五〇〇。米ニテ編隊ヲ解キ攻撃態勢入ル攻撃ノ單位ハ五機編隊ト見タリ

(此、五機ノ中ニ一ノ二機ノ戰鬥機混入シアルモノ、如シ)

(2) 攻撃ハ太陽ヲ背ニシテ三〇〇。附近迄緩降下爾後六〇。七〇。

度ノ急降下各機ノ間隔一〇〇米以内

引起ス点ハ高度一〇〇〇米ナリ爆彈ヲ投下高度約五〇〇米

(3) 敵戦闘機ニ「ロケット」爆彈又ハ「ロケット」機銃ヲ装備シラリト看

做サル、点多シ西翼ヨリ鮮明ナル白煙噴出シタル後彈丸未ル

(4) 敵ハ戦闘機ヲ先ヅ降爆スルカノ如ク運動牽制シ急ニ異方向

ヨリ爆撃隊急降下スルトアリ

(5) 攻撃隊ハ始メ他艦ニ行ク如ク見セテ急ニ木葉返シテ急降

下ニ移サト多シ

(6) 従来敵ハ常ニ後方ヨリ突込ム事多シト聞キタルモ今次戰鬥ニハ

前方ヨリモ急降シ来レリ 或ハ我が噴進砲ニ恐レヲ抱キタル結

果ナルヤモ知ラズ

(7) 敵ノ爆彈ハ従来瞬發性ノモノ多シト聞キタルモ今次ノ爆彈

ハ全部遲動性ノモノナリ發着甲板附近ニテ戰死シタルモノ殆ドナシ

アリタルモノヨリ發着甲板附近ニテ戰死シタルモノ殆ドナシ

(8) 爆彈ハ最初ニ爆撃スル隊ハ六番程度ナリシモ後ヨリ突込

ミシ隊ハ二十五番程度ナリ(水柱ヨリ明ラカニ認め得タリ)

(尚敵戦闘機F6下爆撃機SB2C皆撃墜機ハ認めガキ)

以上、如ク敵機ノ攻撃ハ戦闘機ト協同其他攻撃自体

漸次極メテ

極漸次巧妙トナリツハアルニ就テハ射撃指揮官ハ敵機術中ニ陥ラザル様注意ヲ要ス而シテ之ガ為ニハ兎ニ毎敵機ヲ自艦ニ近ツケサセザルノ着意肝要ト認ム換言セバ射撃ノ根本ヲ敵機撃墜ニオクヨリハ稍消極的ナルモ艦ノ保安ヲ第一義トシ如ク徹底サスノ要アリ之敵機撃墜ニ重点ヲオク時ハ引キツケテ打タントシテ射撃時機ヲ失シ或ハ勤モスレバ追ヒ打チトナリ易シ敵機一度急降下ニ入ラバ先ツ大ナリ小ナリノ被害ヲ受ケ易シ之ヲ切抜クルノ道ハ多少彈丸ノ浪費ハアルモ少シニテモ敵機急降下ニ入ル傾向ヲ看破シタル時ハ機ヲ失セズ之ニ射撃ヲ集中シ敵機撃墜ノ出鼻ヲ挫ク様ニ持テ行クコト絶対必要ナリ

(2) 射撃指揮ニ關シ

(a) 視覚通信ヲ第一トシ聽覺通信ハ之ヲ副トスルヲ要ス理由

現在各艦裝備ノ通信連絡機關ハアマリニモ聽覺通信偏重ノ嫌アリ視覺通信ノ如キハ應急通信トシテノミ利用シタルノ實情ナリ然ルニ聽覺通信ハ左記事例ヨリ見ルモ實戰ニ於テハ恐ラクアテ期待ヲカケラレズ即チ本艦ヲ飛行機發着用擴聲器ヲ砲術科ニ轉用シ砲術長ハ高射指揮所ヨリマイクヲ通シ

テ指揮シタリ此ノ方法ニヨレバ平常ノ訓練又實戦ニ於テモ射撃
直前迄ハ極メテヨク通達一見甚ダ良好ナル成果ヲ上ゲル心
シタルモ一度乱戦ニ至ルヤ後継スル視覚見通信ニ及バザルト遙カニ
大ナルモアリタリ恐ラク如何ナル高声ノ聴覚見通信モ百パーセントノ
通達ハ先ヅ不可能ニ近カルベシ然ルニ一方射撃指揮ノ問題
ハ此等酣戦期コソ最モ必要トスル所ニシテ此ノ時機ニ通達不能
又ハ通達遲延スルガ如キハ最モ致命的ナル問題ト断ゼザルヲ
得ズ以上ハ聴覚見通信ヲ重視セルガ故ノ缺陷ト思考ス而シテ之
ガ解決ノ道ハ結局平素ヨリ視覚見通信ヲ第一トシ聴覚見通信
ハ之ヲ副トシテ訓練シテ以外ニ道ナシト信ズ

右ノ見地ニ基キ差當リ取ルベキ策次ノ如シ

(1) 傳令台ノ手旗台ノ如キモノニシテ各群指揮所ヨリ視認容易ニ
高射指揮所附近ヲ可トス)ヲ設置シ各通信機関(電話「バザ」
通報器等)ト併行ニ現在ノ應急通信的ノ信號ヲ行ハシム

此ノ方法ハ現在ノ應急通信ヲ電話(傳声装置)「バザ」通報
器未ダ故障セザル前ヨリ實施スルト言フダケノ事ナリ

斯クモ各部ノ傳令ハ常ニ高射指揮所ニ注意シ先ヅ肉眼
ニテ高射指揮所ノ號令ヲ知ルヲ得次ニテ電話「バザ」等來ル

故號令ヲ脱漏スル事少シ又例へ電話故障或ハ聞キホリ得ザル
場合ニ於テモ先ヅ指揮官ノ號令ヲ漏スガ如キ事ナク被害ヲ
受ケタル時ノ指揮系統モ混乱スルヲ少シ

殊ニ其ノ通信ノ内容ヲ現在帝國海軍ニ流通シアル手先信
號ノ如ク對空砲戰ニ関スルアラユルモノヲ規定之ニ習熟シテ電
話等ヨリハ遙カニ通達早キ場合多シト思考ス

例へ本艦ニ於テ

「今ノ味方ノ飛行機」敵味方不明ノ飛行機「追ヒ打チヲヤルナ」
「反對敵ニ注意」方向盤ニ就ケ「傳聲管ニ就ケ」「通報器ニ注
意」……豫備應急班整列等ハ電話ヨリハ遙カニ通達早キ
實効多カリキ

(2)砲戰「バザ」ハ之ト直列ノ砲戰「ランプ」ヲ必要トス

前述セル如ク「バザ」「ハイ」等ハ機銃射撃開始以後ハ中々
聞キホリ難キヲ以テ「バザ」「トランプ」ト同時ニ利用シ得ル如クスル
事肝要ト認ム

(3)號令通報器ハ實戰ニ於テ眞ニ活用出来ル如ク改造ノ要アリ
即チ亂戰場合ニ必要ナル號令ノミヲ網羅シオケバ可ナリ

(4)砲戰「ランプ」通報器 高射指揮所等ハ同視シ得ル如ク凡テ

通信連絡機関ヲ改造ノ要アリ

④現在高射指揮所ニ注意セバ通報器が見エズ電話ヲ冠シテ高射指揮所ハ見エズト言フガ如キ配列相當多シ
電器ヲ冠リテ而モ通報器砲戰デンプルが見エ又高射指揮所ニ注意スル事が出来更ニ然ラ言ハバ自己ノ指揮官砲尾が見ニル如ク凡テノ機関ヲ一望シ得ル様アラユル施設ヲ改造ノ要アリ

以上聽覺通信ノ研究モナル事ナカラ(電話等ハテレトク式ニナセバ満点ナリ)視覺通信ニ更ニ積極的ナル研究ヲ行ヒ電話「ザ」等ヲ利用セザルトモ完全ナル無聲砲戰又ハ無言射撃指揮可能ナル如ク平素ヨリ訓練シオクフト絶對必要ト認ム(視覺通信ハ被害ヲ受ケタル時視認セザル缺欠アリ)砲戰發序ハ意ノ如ク行ハルヲ要シ「サイレン」等ヲ利用スルハ有効ナリ

母艦ノ對空砲戰ハ後述スル如ク各群ノ獨立打方ヲ可トスルモ誤リテ味方飛行機ヲ打タル時或ハ急ニ敵飛行機出現シタル時等緊急射撃ヲ發停セシムルノ要アル場合「サイレン」ヲ使用スル極メテ有効ナリ又水上射撃ニ於ケル管制ヲンプト同

様高射指揮官、射撃指揮官ニ之ニ類スルモノヲ必要トス之ガ爲
現在ノ待機所「バザー」ヲ砲側ニ導キ配置ニ就キタル以後ハ之ヲ管
制「アラ」トシテ使用スル如クナシオクハ有効ナリ

(c) 射撃ハ各群ノ獨立打方ヲ建前トシ指揮官ニ補助員一名ヲ
必要トス

敵機少數ナル場合其他狀況平易ナル時ニ高射指揮所ヨリ
ノ統一指揮可能ナルモ先ヅ母艦ノ對空砲戦ハ一瞬ヲ争フ場
合極メテ多キニツキ常ニ高射指揮所ヨリ統一指揮スルヲ
建前トスル如キ思想ハ反ツテ失敗ヲ招キ易シ

故ニ母艦ノ對空砲戦ハ先ヅ各群ノ獨立打方ヲ建前トシ平常
ヨリ各群指揮官ニ分ナル砲戦能力ヲ與フル如ク教育シオキ
高射指揮所ヨリハ必要ナル敵情ノ通報目標ノ指示測的諸
元射撃ノ始終新目標ノ指示程度ニ並メテ可トス

尚各群指揮官ハ战斗中一目標ニ捉ハレ易キヲ以テ先制先ク
敵機ヲ撃墜スル爲ニ絶ヘズ現目標トハ別個ノ飛行機ヲ搜
索スルノ補助員ヲ一名絶對必要ト認ム本艦ニ於テハ探照燈長
等ヲ利用セルモ結果ハ良好ト認メタリ

(d) 對空見張機関ハ全幅之ヲ射撃指揮官ニ利用出来ル如ク心

掛タルノ要アリ

現在見張能力ハ寛探等モアリ相當進歩シタルガ如キモ之ト射撃指揮官トノ間ニハ何等ノ關係裝置置ナシ從ツテ一度射撃開始セラルヤ見張員ノ報告ハ難ク且爲指揮官ニ到達セズ全然指揮官ト遊離指揮官自ラ敵機ヲ搜索スルノ實情ニ在リ然ルニ一番恐シキ事ハ又今次戦中ニ於テ失敗セテ射撃中ニ是ノ方向ヨリ来ルル飛行機ノ攻撃ナリ本艦ニ於テハ砲術長補佐ヲシテ此等見張機関トノ連結及艦長トノ連絡ニ任セシムル戰實施ニ見張員探飛員等ヲシテ補佐セシメタキ事項ヲ平素ヨリ教育シタルモ實戰ニ際シテハ尚因習カズ今後此ノ方面ノ研究モ更ニ深ク行フ要アリト認ム

(四) 兵器施設及配員ニ關スル事項 (責重砲關係ヲ除ク)

(五) 現在ノ軍裝機銃ハアラユル所ニ無統制ニ備ヘツケアルヲ以テ指揮官ニ極メテ不便詳指揮官ヨリ見ニナル所ニモアリ甚ダ具合悪シ

- (四) 砂動軍裝機銃必要トスル事前述ノ通り
- (五) 砲光覆ハ大半破壊ス予備品ヲ多數必要トス
- (六) 軍裝機銃ニ必要トス又打鼓ノ番場ニ考

上慮スル要アリ

(e) 機銃ノ彈庫員ハ注撒水ニ必要ナルヲ、外機銃員ニ充テタリ

(f) 單裝機銃二名ニテハ射撃速度發揮上頗ル不利ナルヲ痛感

セリ少クモ三名ヲ要ス

(g) 探照灯員ハ晝間ハ噴進砲ニ充當セリ

(i) 其他

噴進砲ニ就イテ

噴進砲ハ今次戦斗ニ於テ始メテ使用セラレタル兵器ナルモ先ヅ絶

大ニ威力ヲ發揮今後更ニ研究工夫ノ餘地大ナリ左記ハ今

次戦斗ニ鑑ミ取敢ヘズ改善スベキ事項ト認ム

ハ照準装置一基ニ對シ砲三門ハ不適ナリ

理由

(a) 本艦ニ於テハ公試終了以後連日ノ訓練ニ於テ再三照準

装置ト砲トノ再度差ヲ生ジ其ノ都度故障箇所ヲ發見シ

テハ修理戦斗直前光ヅ完備ノ状態ニアルモ二十八發ノ

彈丸ヲ裝填スルトキハ重量相當大ニ為カヤハリ幾分カノ再

度差ヲ免カズ即チ照準装置一基ニ對シ砲三門ハ過員

ヲ荷ニシテ照準装置一基ニ砲一門又ハ二門トナスヲ絶對必要ト

ス

(b) 多数機同時ニ異方向ヨリ殺到スルガ如キ場合ハ分火不可能ナル故一目標ニ對シテハ相當濃密ナル彈幕ヲ形成シ得ルモ結局粗トナル部ハ分ヲ生ズルヲ免レズ敵機ニ乗セラルノ算ナシトセズ故ニ始メヨリ照準装置一基ニ一門ヲ理想トス

(c) 噴進砲ハ一度發射シ終レバ裝填秒時相當大ニシテ本艦ニハ種々研究工夫之ガ縮少ニ努メタルモ尚三門(八四發)ノ裝填ハ一分半ヲ要シ一分半ノ裝填秒時ハ何トシテモ忍ビ難キ秒時ナリ事實本艦ニテハ此ノ裝填中左舷ヨリ右噴進砲ハ敵ノ爆撃ヲ受ケ使用不能トナリタルヲ以テ裝填秒時ノ縮少ニハ如何ニシテモ照準装置一基ニ一門ヲ可トス之レ一基ニ三門トセバ例ハ逐次打方ニテ打ヲ終リタル砲アリトスルモ砲尾危陰ナル故裝填不能ナリ一基ニ一門トセバ先ヅ間断ナク發射セラレ各個ニ裝填スル故全砲ガ中斷スルガ如キ事先ヅナシト見テ差支ヘナカルベシ

(d) 本艦ノ左舷噴進砲ハ最初敵機ノ攻撃ニテ噴進砲台ニ直撃ヲ受ケ全然使用不能ニ陥レリ右ハ特異ノ状況ナルヤモ知ラスト雖モ被害局限ノ見地ヨリスルモ一基一門ヲ多

数装備スルヲ理想トス

(e) 一基ニ三門ニテ同時齊射ヲ行フ時各部ニ無理ヲ来シ破損シ易シ

(f) 發砲電路ハ初彈發砲迄ハ可ナルモ爾後至近彈等ニヨリ故障シ易シ然ル時ハ結局一門一門ノ砲側發射トナル故最初ヨリ一基一門トナシオクヲ可トス

(g) 噴進砲ハ射撃時機極メテ困難ナル所若シ射撃指揮官誤リテ其ノ射撃時機ヲ失スルガ如キ場合ハ全く無用ノ長物トナル故之ヲ多数ニ装備シ此ノ缺點ヲ補フニカラム一基一門トスルヲ可ト認ム

(h) 噴進砲彈丸ノ炸裂ニヨリ被害半径及散布ハ相當大ナル故一門ノ威力モ三門ノ威力モ左程変ラズサレバ分離シテ使用スルヲ適當ト認ム

(2) 一基一門トセバ簡單ニ施設ヨリ砲側照準可能ナリ

(2) 砲側照準可能ナル如クナシオク事必要ナリ
現在ノ噴進砲ハ故障頻發スル現状ナル所然ラストスルモ至近彈等ニヨリ追從電路故障シ砲側照準ニ移ラサルベカラザ場合多シ本艦ニテハ不燃性硝子及鉄板ヲ受入レテ

ヨリ砲測照準可能ナル如クナシタルモ將來ハ是非安心シテ砲測照準可能ナル如クナシオクノ必要アリ

(3) 砲員ノ配員ハ一基ニ三名ニテ可ナルモ必ず砲台長一名ヲ必要トス之ヲ射撃指揮官常ニ注意セザレバ發射出来ザルガ如キ狀況ニテハ神機ニ投ジテ發射スル事不可能ナリ故ニ照準装置ノ長ト砲台トノ間ニ絶ヘズ密接ナル連絡ヲ必要トスル爲砲台ニハ具ノ長ヲ一人必要トス

(本艦ニテハ砲台照準装置ニ簡單ナル手先信標ヲ定メオキテ滑ニキタルモノト認メアリ)

(4) 發射時機ハ稍早目ナルヲ要ス

發射ノ時機ニ延宕器ノ作動秒時等ハ飛行秒時測距(目測)費消時目測誤差眞管秒時誤差的速誤差炸裂時ノ有効帶ヲ考ヘ意シテ(詳細省略)ニハ〇.〇三〇〇.〇六〇七秒調定諸元ニ自速ニヨル飛行機修正角(上ハ四度)照準器砲台間ノ集中再修正以外砲校正案通リトシテ發射セルモ尚稍下方ニ彈着セルヲ覺ユ發射ニ慎重ヲ期セルタメ射撃時機ヲ失セリノ感ハナシト言ヘズ且彈道ヲ赤彈、青彈ノ中間ニテ打ツハ不適當ナル感ハ受ケタリ

(5) 射撃指揮所ニ測距受信器及見張機關トノ連絡施設ヲ必
ニ要トス

噴進砲ハ其ノ射撃時機極メテ難シキモ現在之ガ發射時機看
 破ニ目標以外ニ利用ノ道ヲシ將來高射器ノ測距ヲ利用シテ
 指揮官ハ自動继电器ヲ發射スルノ案アリト聞クモ指揮官
 照準裝置ヲ離シテノ指揮ハ全然意味ナシ故ニ測距受信
 器又ハ見張機關ノ日測ヲ利用スル如クスルヲ可トス

(6) 本艦ニハ三門同時ニ發射スル形式ヲ一齊打方

二門(二門) 打チ終リシル後

一門(三門) 打ツ形式ヲ

一門毎ニ打ツ形式ヲ

交互打方

逐次打方

ト假稱シ各打方ニ於テ何齊射 打ツカハ各群ノ指揮官ノ自
 由トセルモ大体原則トシテ砲枝案ヲ行フ様令シタリ

實際ニ見タル感ハシニテハ飛行機一機ニテハ日測誤差及炸裂衣
 時ノ有効半径ヲ考察スル時先ヅ逐次打方ノ十回齊射ヲ
 適當ト認メタリ

(7) 裝填秒時縮少上左記事項考慮ノ要アリ

(a) 現在ノ裝填杖ハ操作困難且實消時大現狀ノモヨリ稍小型

トシテニ又式ノモノヲ可トス (之依レバ一撃ニニ發裝填可能約ニ秒以上ノ縮少ヲ見ル)

理想トシテハ裝填シテ直チニ仰角ヲカツレバ正確確實ニ打針ト火管ト接スル如クセルカニテハ發一度ニ自動裝填可能ナル如キモノヲ考察製作製表ノ要アリ

(b) 震動防止ノ關係ト判断スルモ現狀ノモノハ配列稍複雑ニシテ迅速ナル裝填上頭ヲ惱マヌト多シ (實戰ニテハ迅速ヲヒトシテ誤リテ青彈ニ赤彈ヲ裝填スルモ止ムヲ得ズトナス)

之ニ對シテハ一ツノ砲ニ對シテハ信管秒時同一ノ彈丸ヲ裝填スルカ一ツノ砲ノ聯裝數ヲニテト言フガ如キ半端ナルモノニアラズシテ簡單容易ノモノトナスヲ要ス

(c) 裝填及待發ノ訓練ヲ白熱化ス

裝填途上發射用意ノ號令アラバ直チニ待機所ニ退避現在裝填セル彈丸ノミニテ發射スル訓練ヲ心テ迄行フヲ要ス之ガ爲照準裝置ト密接ナル連絡ヲ取り得且ツ砲側及敵機ノ運動ニ注意出來ル如キ待機所ハ最モ必要ナリ (十歳型左舷噴進砲ハ理想的ナリキ)

(d) 其ノ他噴進砲操作甲板ヲ廣クスルコト

彈庫内ノ彈丸配列 照準装置トノ連絡 待機所ヨリ砲迄経路

(8) 將來ハ小型ノモノヲ多数裝備スル方針ヲ有利トス

理想ハ簡單確實ナル照準装置一基ニ砲一門ヲ多数各處裝備

反對艦ヲモ射撃手可能ナル如クナス事ナリ 殊ニ之ガ操作極メテ

簡單ナルヲ以テ二十八聯裝程度ノモノ以外ニ母艦ノ整備員

待機所附近ニハ三聯裝程度ノモノ又ハ擲彈筒式ノモノヲ裝備

シ整備員ヲモ發射可能ナル如クナシガ極メテ有効ト認ム

(9) 母艦隨伴ノ艦艇ニハ噴進砲ヲ裝備シ之ヲ彈幕ヲ構

成スルヲ可ト認ム

(10) 初速稍小ニ故今少シ大トナスヲ要ス

之ガ爲彈量ヲ小トスルモ初速大ナルニハシカズト思考ス

(11) 子截型ニ於ケル噴進砲ノ右舷彈庫ハ熱帶行動中極

テ高温ニシテ(煙突排氣ノ影響ヲ受ク)彈体ハ半ニテ觸

ルヲ得サル程度ニ達スルヲ常トセリ 冷却装置ニ関シ考慮

ヲ要スルモノト認ム

(12) 發砲電路ハ毎日ニテ点檢(パイロットランプニテ行フ)シタルヲ以テ

不發スルモノ殆ンドナシ但シ簡單ニ發砲電路ノ良否ヲ檢

(三) 通信科

スル装置ヲ必要トス 尚擲彈筒ノ如ク撃手發式ノモノモ一考ム
ベキモノト認ム

(3) 砲自体ハ相當堅固ナルヲ要ス
相當ノ震動モアリ側壁ニテ熔接ノ離ル、モノモアリ更ニ強固ニ
作リオクラ要スルモノト認ム

裝備ノ現情	被害ノ状況	對策
現裝備モハ耐波性ノミヲ考慮シテリテ對爆彈的大激動ヲ考慮シテラズ 艦ノ連絡ハ有線電話及令達器ヲ主用シアリ	被一撃ニ依リ卓上電話及棚中ノ暗蹄書通風管等飛散落下セリ 被害直後令達器使用不能間エタク電話モ使用不能トナレリ	當直者ノ精神狀態ニ及ボス影響者極メテ大ナル故室内ノ体裁等ニ擬ハルヲナク牢固名裝備ヲ要ス 本艦ノ如キ小型空母ハ交通極メテ不便ナル故上記ノ被害ハ全ク艦内ノ神経系統ヲ絶タレ應急通信及通信指揮上極メテ困難ナリ海員戰ニ使用セザリシモ教練時送受信室間ニ九六式空一線無線電話機ヲ裝備(室内空中)

(四) 内務科

(イ) 應急部

(1) 防毒面ノ装着ハ早期ナルヲ要ス

今次戦斗ニ於テハ對空射撃開始後間モナク爆彈被害ニ依リ高濃度ノCO₂ガス發生セリ被害ヲ認ムルト同時ニ表面別種ニ切換

<p>印字機及換字機 如キ兵器ヲ裝備 シテモ使用スル機會 乏シキレザル場合多 シ</p>	<p>SB盤ハセルマイト 製ナル故ニ急ヲ要 スル際ニハ挿入スル 困難ヲ呈セリ</p>
<p>線五米)ニ連絡不良ナリシ事アリ 内要所ニ無線電機ヲ裝備スルモ 一法ト認ム</p>	<p>印字機及換字機ノ如キハ現配員上主 戰場裡ニ於テハ使用困難今次戦斗ニ 於テモ一回モ使用セザリシ事實ニ鑑ミ 出撃前陸揚スルヲ可ト認ム</p>
<p>SB盤使用ハ當直者ヲシテ精神上 錯乱ヲ来セル場合錯誤ヲ起ス困 ナル故艦ノ動搖激動ニ依リ挿入セル 文字盤ノ抜ケ出ルヲ防グ如クスル要アリ 認ム</p>	<p>SB盤使用ハ當直者ヲシテ精神上 錯乱ヲ来セル場合錯誤ヲ起ス困 ナル故艦ノ動搖激動ニ依リ挿入セル 文字盤ノ抜ケ出ルヲ防グ如クスル要アリ 認ム</p>

ハタルモ時既ニ遅ク所在員ハ數分ニシテガスノ爲ニ倒レル者多シ故ニ戦斗ノ令ニテ艦内ニ在ル者ハ機ヲ逸セズ裝面ニ置クヲ要ス

(2) 高濃度ノCOガスニ堪ル防毒兵器ノ配給ヲ要ス

裝面後COガス中ニ入リタル者モ約十分後倒レル者多數アリ故ニ現所ニ付高濃度COガスニ堪ル防毒兵器ノ配給ヲ要ス

毒兵器ハ高濃度ノCOガスニ對シテハ防毒効果不充分ト認めラル、

(3) 下甲板以下ニ於ケル戦斗配置ノ多キ區劃ニハ兩舷ニ通ズル防衛扉蓋(出入口)ノ増設ヲ要ス

二舞五。砲消防兼ビルヂルポンプ室後部冷却機室後部轉輪羅針儀室後部「ゲートセル」ポンプ室等ハ最下甲板ニ位置シ同室ニ通ズル防衛扉蓋(出入口)ハ下甲板左舷十六兵員室ニ一ヶ所アルノミナリキ同兵員室ハ至近彈多舷側ニ大破孔ヲ生シ艦左舷ニ急速大傾斜ト共ニ滿水シ遂ニ各在室者總員艦ト運命ヲ共ニセリ斯ク如ク戦斗配置ノ多キ區劃ニハ連絡ノ爲ニモ特ニ兩舷ニ通ズル防衛扉蓋(出入口)増設ヲ要ス

(4) 兩舷通路ハ努メテ小區劃ニ區分スルヲ要ス

本艦中甲板中部兩舷通路ハ長サ約八十米ニシテ其ノ間ニ有スル防衛扉ハ略中央ニ一個ノミナリキ附近爆彈炸裂ニ依リテ高

濃度COガス及爆風ハ同通路ニ全面的ニ侵入シ所在員ノ大多数ニ
 ガ為相當大ナル被害ヲ受ケタリ故ニ斯クノ如キ長キ通路等ハ努
 テ小區劃ニ區分シ置クヲ要ス

(5) 水準線附近及同以下ノ重要區劃及大區劃ノ兩舷側外板ハ空所
 フ経テニ重張トナスヲ要ス

今次ノ爆彈被害ハ至トシテ左舷至近彈ノ多メ全面的ニ大小破孔ヲ
 生ジテ浸水遂ニ傾斜沈没ノ止ムキニ至レリ故ニ至近彈被害ニ對
 シ之ヲ局限シ得ル如ク強度大ナル外板ヲニ重張リトナスヲ要ス

(6) 戦斗用意迄ニ中甲板以下ノ防水扉蓋ヲ閉鎖シ出来得ル限リ補
 強シオクヲ可ト認ム

(7) 甲板ノ撒水ハ可ト認充テ傾斜ヲ増大スルノ虞マルヲ以テ其ノ撒水量
 ハ慎重考慮ヲ要ス

(8) 傾斜ヲ注水ニ依リ修正スルニ八十度附近迄ニ於テ早目ニ行フヲ可ト
 認ム

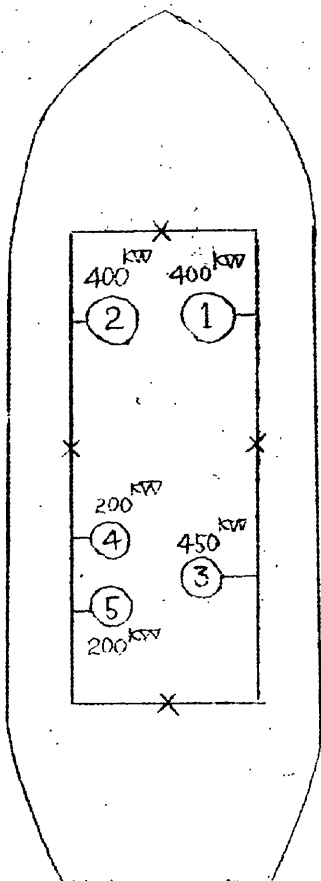
(9) 被害ト同時ニ消防主管切断シ吐水セザルコトアルヲ以テ帆布浴槽
 及短艇内ノ貯水ハ極テ有効ナリ

(10) 應急ノ想定訓練ハ大被害トシ特ニ破孔ハ五米程度トシテ數ヶ所同
 時発生ヲ訓練スルノ要アリト認ム

(1) 今次戰鬥ニ於テ電誌ノ被害少ク終始之ヲ活用シ得タルハ防禦
 實施上極メテ有効ナリキ

(2) 電機之部

(1) 發電機ノ裝備位置ニ関シ考慮ヲ要ス即チ本艦ニ於テハ前部
 一二號發電機ハ蒸氣後部三、四、五號發電機ハ内火ナルヲ以テ
 今次戰鬥ノ如ク蒸氣圧力零トナリタル場合ハ前部側發電機ハ
 全部使用不能トナリ使用可能ナル發電機ハ後部ノミトナル不都
 合アリ



(2) 兩舷ニ電源轉換可能ナルモノモ兩舷ヨリノ電路布設ハナル可ク互ニ相
 離シテ布設セザレバ兩舷側電路一時ニ切斷シ兩舷轉換ノ價値ナシ
 (舵取機用電源電路十七兵員室ニテ兩舷一時ニ切斷セリ)

(3) 本艦ニ於テハ應急灯ヲ各通路ニ配布シアリタルモ激動ニ依リ基板破損シ最モ必要ナル部ノ應急照明不可能トナリ且場合多シ故ニ耐震装置ニ為スカ若クハ應急員ニテ所持シ置ヲ 有効ナリト思考セラル

(4) 今次戦斗ニハCOガス発生ニ依ル被害甚大ナリシ事實ニ鑑ミルモ應急員及艦内ニ戦斗配置ヲ有スル者ハ防毒面具ニ付乃至ニ付ヲ是非必要トス

(5) 各區劃ノ氣密試験ハ嚴重ニ施行スル要アリ本艦、如ク煙線ノ負荷部ヲ「バテ」ノミニテ填充シタルモノハ水压ニ堪エ難ク此ノ部ニリノ浸水ニ對スル防水極メテ困難ナリ

(6) 注排水部

對策	理由
被害傾斜ニ對スル復原法トシテ上部重油「タラ」(注排水區劃)内ニ急速注排水諸装置(油圧装置)設備ノ件	改装後本艦ノ注排水装置ハ多數トナリ且又傳導軸長ク開閉困難ナルミナラス注水時間四十分以上ニシテ急速トハ云ヒ難ク今次作戦ノ左舷側大被害ニアリテハ十分ニシテ十五度以上傾斜セル狀況ニ鑑ミ現在ノ注排水装置ニテハ適當ナラス依ッテ油圧装置ノ設備

(五) 機関科

中部注排水管制室設置件	ヲ要ス 本艦ハ改装後中部注排水管制所ヲ省略 炊所後部通路ニ假設セル為被害時ニテリテハ マスクヲ装着シテ標作セザルベカラスナルニテ近 ノ雑音ノシメ通信困難トナリタルヲ以テ密閉區劃設 置ノ要アリ
應急灯増備件	電灯消滅時ハ應急灯ニ依ラザル可カラスナルヲ以 テ各弁開閉員待機所ニハ是非装備ノ要アリ
濟聲管裝備件	中甲板以上短距離ニアリテハ電話ヨリモ傳聲管 ヲ使用スルハ迅速ニシテ有効ナリ
配員増加件	本艦ハ注排水員二十名ナリシモ今次ノ作戦ニテリ テ弁開閉員ノ不足ヲ痛感セリ依ツテ本艦型 ニテハ二十五名以上配員ノ要アリ

前機室(外ハ主機械)ニ獨立ノ電動注油ポンプ一台ヲ裝備スル要アリ
(理由)後機室内火機械ニシテ前後機一聯ノ主軸ニ連絡セラレ前機室蒸氣
注油ポンプ使用不可能ナル場合後機ヨリ送油ヲ受クル如キ装置ナクモ
今次ノ被害ニ於テ底油ポンプ電源停止セル為後機室ニ潤滑油不足

ヲ未シ運轉経續不可能ニ陥リタリ

(四) 巡航タビニ使用限度速度カヲ擴大スルニ要アリ

(理由) 本艦裝備ノ巡航タビニハ使用速カ十六ノ節以内ナリ雷跡回避ノ

タメ突差増速時ノ場合離脱操作時間ヲ考慮セバ警戒航行中ハ

常時使用不可能ナリ巡航タビニハ最小限度二十四ノ節ノ程度迄使用

可能ナラシムルニ要アリト認ム

(五) 通信傳令員ハ優秀ナル下士官ヲ配員シ其ノ訓練ハ艦橋固有傳令

員ト聯合シ更ニ徹底的訓練ヲ實施シ置クニ要アリ

(理由) 今次作戦中機關科傳令員ヲ一名艦橋ニ派遣シアリテ通信連絡

ニ當ラシメタルニ相當有効ナリシモ被雷時ハ通信輻輳シ混乱ヲ

呈シタリ

(六) 前機室ニ裝備セル應急注油用炭油ポンプト電系ハ兩舷轉換可能

ナル後機室航海補機用配電盤ニリ給電スル如クスルニ要アリ

(理由) 被害時電源停止タテ該ポンプヲ使用不能ニシテ後機室潤滑油

不足ヲ未シ運轉不可能ニ陥リタリ

(七) 重油吸管附仕切弁(移動時開閉スルニキ重要弁)ハ重油移動時

ニシテ室ヨリ開閉可能ナル如ク裝備ニ要アリ

(理由) 本艦左舷至近彈ノタメニ四罐室浸水左舷ニ傾斜セルヲ以テ重

(六) 飛行科

油移動依ル傾斜復原ヲ行ハントセシモ該弁所在ハ三罐室ハ火災ガス充滿シ入室不可能ナリシ爲仕切弁ヲ閉ク能ハズ重油移動ニ依ル傾斜復原ヲ不可能ナラシメタリ

(イ) 防火扉及防火幕ハ飛行機ヲ格納セザル場合ニハ開キ置クヲ可ト認ム之火災トナル燃焼物無ク煙及ガス排除ニ便利ナレバナリ

(ロ) 泡沫弁ハ全部啓開シアリカニ爲一ヶ所ノ管破損ニ依リ圧力急降下シ必要箇所ニ送水出来ザル結果トナリ中間弁開閉ハ指揮系統ヲ明シ戦斗区分トナス要アリ

(ハ) 直接戦斗ニ關係ナキ飛行機整備員等ハ適當ナル位置ニ分散待機シ飛行甲板應急及格納庫應急ニ協力スルニ便ナル位置ヲ必要トス

(ニ) 被害時格納庫燈灯消滅後ハ煙ニ依リ状況全ク不明ナル事多キヲ以テ此ノ見地ヨリセバ日昇降機ハ飛行甲板ヨリモ上部格納庫附近ニ止メ置クヲ可トス

(七) 醫務科

(イ) 重要書類ハ出發前必要以外ハ全部陸場ゲスルヲ要ス
例ハハ診断書現認(事實)証明書治療品証憑書類等ナリ

- (イ) 戦時治療所備付ケ治療品ハ被害ニ依リ相當大ナル衝撃ヲ受ケルモ破損放逸セサル様格納法及器具容器ヲ考慮スル要アリ
今次戦斗ニ際シ治療品戸棚ニ格納シ置キタルモ被害激動ニ依リ戸扉ト共ニ内部ノ治療品飛散シ且硝子容器薬瓶破損傷者收容治療ニ困難ヲ極メタリ尚艦ノ被害ニ依ル傾斜ノ為戸棚内治療品散乱シ困リタリ
- (ロ) 戦時治療所ニ於テハ救急治療ニ必要ナル最少限度ノ治療品ヲ取出シ準備シ置キ他ハ全部前記ノ如ク格納シ置ク可トス
連続戦斗ノ合間ニ於ケル應急治療ハ精々ニ辨辦此中又ハ繃帯ヲ以テスル被復程度ナレバナリ但シ戦艦等ニ於ケル戦時治療所ニ於テハ趣ヲ異ニスト思ハス
- (ハ) 本艦ニ於テハ醫務科總員ニ一號救急嚢及雜用鉄各一併ヲ携行セシメ置キタルニ極メテ便利ニシテ多數傷者ノ救急治療ヲ急速順調ニ処理出来尚各現場ニ於ケル治療ヲ有効適切ニ器具施出来タリ要スルニ一辨救急嚢ヨリ大ナルヲ可ト認ム此ハ他麻網(五米位)一本小刀一本位ヲ携行スルニ利用ノ途大ナリ
- (ニ) 副木ハ艦内工作ニテ可ナルヲ以テ各種ノ大サノモノヲ或ルベク多數準備配備シ置ク必要アリ

(イ) 防毒面ハガス発生後着用シテハ爆弾命中炸裂セシ場合落下付
 イテ着用スル者尠ク結局ガス中中毒スル者多キヲ以テ中甲板以下ノ
 配置ハ戰鬥開始ト同時ニ着ケオクヲ可トス今次戰鬥ニ於テ之ガシト
 考ヘラレル中毒者相當アリシリ

(ロ) 本艦今次戰鬥ニ於テ被害ニ依リ艦傾斜セシ時戰時治療所(士官室)
 ハ十五度程度ニシテ使用困難トナリタリ之ニ加フルニリノリニトハ甲板員
 傷者ノ血液流レ平面ニ於テサエズベリ易キニ血液流レ且傾斜マルタメ甲
 板上殆ド歩行出来ズ從ツテ戰時治療所トシテ用ヲサズ

士官室等ノ稍廣キ治療所ニ予メ網ヲ展張スルカ準備シオク要アリ
 (ハ) 戰時治療所附近ノ各室ハ凡テ傷者收容室ニ直チニ利用出来得ル
 様充分準備シオク要アリ

(ニ) 豫メ傷者運搬員若干(兼務ヲモ可)ヲ是非醫務科ニ置ク必要アリ

(三) 被害甚大ニシテ沈没ヲ免レザルヲ豫期スル場合ハ可成早期ニ總員退去
 用意ヲ令スルヲ可ト認ム

今次沈没ノ場合ヲ見ルニ最後迄退去命令ナキタメ患者退避要具
 ノ準備出来ズ例ヘ要具アリテモ時既ニ遅ク安全ニ海上ニ送ル事不
 可能ナリ尚患者以外ニシテ退去ノ余裕ナキ為アラ一命ヲ捨テタル

者多シ

(1) 令船艦被害多ク退去ニ際シ僅カク浮遊物ニ氷氷不能者重傷者ヲ救助サ

レタル者相當多數アリ豫メ適當ナル浮遊物ヲ準備携行セシメ置テ事モ必

要ト認メラル(尚補充兵ノ大半ハ溺死セシ疑アリ)

(2) 出撃前戦斗ニ直接必要ナキ治療品ハ特ニ其重タル手困難ナルモノ等

ハ充分検討シ思ヒ切り一時陸揚ガシオクコト絶對ニ必要ナリ

112

(1) 主計科

(1) 庶務関係

残務整理ニ當リ重要書類陸揚ゲル効果ヲ痛感セリ本艦幸ヒニ出撃前

總員名簿功績明細書ヲ大分基地ニ陸揚センヲ以テ圓滑ニ事務涉リタリ

(2) 給與関係

今次出撃手ノ如ク一作戦終了後内海歸投ヲ豫想セラル場合ハ現金出納簿

經費明細簿家族渡關係綴等ハ出撃前一時陸揚ヲナシオキ出撃後ノ

出納アリタルトキハ假出納簿ニ記載シ歸投後整理スルヲ可ナリト

思考ス

(3) 衣糧関係

戦斗既食数日ニ及ビ握リ飯ノ連續ニテハ士氣ニ及ス影響大ニテ果物副食

用糞結等潤澤ニ用意スベキナリ而シテ炊員モ亦戦斗ニ於テ運彈

應急員トシテ活躍スベキモノナレバ決戦ヲ前ニ戦斗配食ニテ過勞ニ陥ル算
 大ニシテ事態ノ許ス限リ極力握リ飯等ノ戦斗配食ヲ避クベキナリ

(終)